

兵庫・釣坂遺跡 つりさか

- 1 所在地 兵庫県朝来郡朝来町立脇字松越ほか
- 2 調査期間 一九九七年(平9)八月～一九九八年二月
- 3 発掘機関 朝来町教育委員会
- 4 調査担当者 中島雄二(朝来郡広域行政事務組合)
- 5 遺跡の種類 集落跡・祭祀遺跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 八世紀後半～一世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(但馬竹田)

釣坂遺跡は朝来町のほぼ中心部にあたり、三方を山に囲まれ、東に延びる扇状地に立地する。付近には、白鳳時代の瓦が出土し、この地方最古の寺院と考えられている立脇廃寺があり、塔心礎が残存する。

調査の対象となった地区は、従前から奈良～平安時代の遺物が採集されている所で、一九八五年に県営圃場整備事業に伴って調査され、河道跡などが検出され

ている。さらに一九九六年にも確認調査を行なった結果、谷の奥側と入口側で集中して遺物が発見され、その二カ所について全面調査を行なうことになった。調査区の名称は奥側を松越地区、入口側を福本地区とし、面積は松越地区が 1010m^2 、福本地区が 1170m^2 である。

松越地区では、建物や河道が検出されており、河道内より多量の土器と木器が出土している。河道は山裾に沿って流れているため、一方の肩が不明瞭であるが、幅は 10m 以上で深さは遺物を含まない層までで 1m を測る。土器には、「郷長」「松越」「松」「南祖」「小水谷」などと書かれた墨書土器が 100 点含まれ、量としては地名とみられる「松」の墨書が圧倒的に多い。また「郷長」の墨書は、付近に但馬国朝来郡桑市郷の公的施設が存在したことを暗示する。木器では木簡二点の他に、馬形や斎串・曲物・盤・合子などが出土している。

福本地区では、松越地区から流れてくる河道の続きが検出され、同じように多量の土器とともに、木器も大量に出土した。墨書土器は「福」など一五点みられるが、松越地区と比べると少ない。木簡は一点で、他の木器としては人形や斎串などの祭祀具や、下駄・曲物・盤などがある。ほかに皇朝十二銭の一つである富寿神宝が出土している。

どちらの地区も遺物は川岸に近い水際で多く出土しており、水辺

の祭祀を行なった可能性が高い。出土した土器は八世紀後半～九世紀にかけてのものが多く、遺跡が最も機能していた時期を示すものと思われる。

8 木簡の釈文・内容

一 松越地区

(1)

・
[尔カ]
息万呂

(248) × (27) × 10 081

(2)

小
[四カ]庭カ
中

(384) × (24) × 7 081

(1)は上端と左右両辺を欠損している。下端は表裏両面から先端を削って斧状に尖らせている。表裏とも墨痕の残りが良くないため、全体の判読は困難である。

(2)は上下端、左右辺ともに欠損している。墨痕は片面のみに見られ、下の部分は二行ある。木の表面が荒れているのと、墨痕が薄いことからほとんど判読できない。

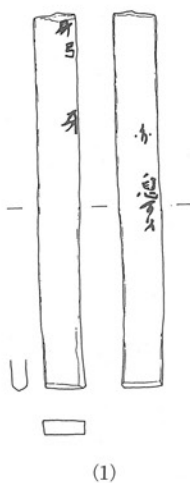
二 福本地区

(3)

王

(114) × (45) × 8 081

(3)も上下端、左右辺とも欠損しており、全体の形状は不明である。墨痕は片面のみで、他の文字は判読が不能である。(中島雄二)



(1)



(2)



(3)